

世界遺産平泉 調査成果など情報交換

第2回 フォーラム オンライン開催



オンラインで開催された第2回平泉学フォーラム

第2回平泉学フォーラム(県、県教育委員会岩手大学など主催)は6日、オンラインで行われた。平泉町平泉のホテル武蔵坊に設けられた発表会場から、基調講演や最新の調査成果報告を配信。昨年11月に同町内に開館した県立のガイダンスセンターも紹介し、世界遺産平泉の歴史や文化に対する理解を深めるとともに、今後の各研究の一助とする情報交換の場としても生かした。

20回開催された「平泉文化フォーラム」を受け継ぎ、発展的にリニューアルした同フォーラム。研究成果発表の場に位置付け開催している。本年度は当初、収容人数約200人の会場で一般来場者を迎えて聞く計画だったが、県内での新型コロナウイルス感染拡大を受けて無観客でのオンライン開催とした。

岩手大学の小川智学長はあいさつで「オンライン開催とはなったが、まずは無事第2回

を行えることを喜んでいた。これまでもさまざまな観点から進められてきた平泉の研究。この場が今後の研究の一助となり、参加者の理解や関心が深まることを願う」と話した。

基調講演として、青山学院大学名誉教授の浅井和春さんがオンライン講演。ガイダンスセンターで開催中の企画展に合わせ、「奥州藤原氏の薬師信仰と赤沢七仏薬師像」と題し、日本美術史の観点から平泉文化を解説した。

研究調査の成果報告では、奥州市教育委員会から2人が登壇。本年度実施した長者ヶ原廃寺跡・衣川と白鳥館遺跡・前沢の発掘調査成果を報告した。

本年度、長者ヶ原廃寺跡では本堂北側と西側の築地塀開口部について実在を裏付ける柱穴を発見。白鳥館遺跡においては、これまでの定説だった主郭の位置を覆す堅堀跡が見つかった。

00(平成12)年から